

生涯学習交流施設の機能検討に関する提言書

～小川図書館・資料館と交流施設の一体的活用を図るために～

小河城跡地周辺地区検討ワーキンググループ

令和7年3月

1. 提言の趣旨

本ワーキンググループは、令和4年3月に策定された「旧小川小跡地周辺地域再整備基本計画全体報告書」における新交流施設の機能に関し、小川図書館・資料館との一体的活用が可能となるように、以下の提言を行う。本提言が、今後の設計及び運営計画の改善に寄与することを期待する。

2. 提言事項

2.1 施設の配置と動線

(1)現状と課題

- 施設の配置は、隣接する図書館への動線を考慮し、適切に設計されているが、西日を遮る庇がないため、夏季は暑さ対策が必要になる。

(2)提言

- 新交流施設は、正面を北向きに変更する案も出たが、正面を西向きのまま配置する場合は、日よけ対策を講じる必要がある。
-

2.2 利用想定と利便性向上

(1)現状と課題

- 新交流施設が図書館利用者や地域住民の学習・交流拠点として十分に機能することが望まれる。
- 新交流施設の貸し出し時間を図書館に統一すると、利用者のニーズと合わない可能性がある。
- 旧公民館を利用していた団体は、やすらぎの里小川などの代替施設へ移って活動しているが、新交流施設を使用することが想定される。
- 地域のイベント等で利用することが想定される。
- 写真や資料の展示コーナーがない。
- 利用者から自動販売機設置の要望が想定される。

(2)提言

- 会議室の閉館時刻は、利用ニーズに合わせて午後9時半又は午後10時までとするのが望ましい。
 - 施設全体の利用ルールを明確化する必要がある。
 - サークル活動やボランティア団体、地元団体等が利用しやすい料金体系とする。
 - 施設予約システムを導入すると利便性が向上する。
 - 資料館の企画展示や利用団体等の展示も考えられるため、ピクチャーレールや照明等の展示設備は必要である。
 - 自動販売機の設置場所を考慮する必要がある。
-

2.3 図書館運営との連携

(1)現状と課題

- 新交流施設と連携した講座等の生涯学習プログラムの提供や情報発信が求められる。
- 既存の図書館内の学習スペースは席数が不足しており、飲食スペースは屋外のため利

用者にとって不便である。

- 既存の図書館では静かに読書や学習をしたい利用者と、読み聞かせやグループ学習等で声を出したい利用者との棲み分けが難しい。

(2)提言

- 新交流施設の情報発信を行い、図書館の読み聞かせ会の開催や図書館まつりのイベント会場として、図書館事業と連携を図る。
 - 読書学習スペースと飲食ラウンジのゾーニングによりニーズに応じた利用が可能である。
 - 読み聞かせのできるキッズコーナーを設置する。
-

2.4 利用形態の多様化

(1)現状と課題

- 学習スペースや会議室は、さまざまな目的で利用されることが想定される。
- 会議室は多目的に活用できる設計となっているが、一般防音設計で遮音性能が十分ではないため、学習スペース利用者が集中できる環境が確保しにくい。

(2)提言

- 可動式の間仕切りにより、利用形態に応じたスペース利用が可能にする。床材は汎用性の高い材質を使用する。
 - 遮音性能を向上させ、集中できる環境を整備する。
 - Wi-Fi の設備を導入し、オンライン学習等のニーズの多様化に対応する。
-

2.5 地域の観光資源と歴史的ゾーンの活用

(1)現状と課題

- 隣接地にある神社や歴史的ゾーンが、地域の重要な観光資源となっている。

(2)提言

- 地域の歴史や文化を紹介する展示スペースを設け、市民等が学べる場とする。
 - 歴史等の講座を開催し、学びと観光を融合した取り組みが必要である。
 - 歴史的ゾーンとの景観調和を考慮した施設デザインを採用し、周辺環境と一体化した魅力ある空間を創出する。
-

2.6 運営管理の方針

(1)現状と課題

- 新交流施設は、別棟となるため、図書館と連携した管理運営が必要である。
- シルバー人材センター等による委託管理は委託料が増加傾向にあり高コストになると考えられる。
- 地域管理は人的リソースの確保が難しく、持続可能な運営が困難であるため、現実的な選択肢とは言えない。

(2)提言

- 遠隔管理方式を採用し、図書館職員の増員により施設管理を行うことを基本とする。
- ボランティアや地域住民が清掃・植栽管理の一部に関わる機会があると、よりよい環境づくりにつながる。

2.7 無人管理とリモートシステムの導入

(1)現状と課題

- 基本計画には受付カウンターが設置されているが、コスト削減を図りながら、施設運営の安全性と効率性を高めるための管理方法が求められる。

(2)提言

- 新交流施設は、コスト削減のため、常駐する職員は配置せず、図書館に遠隔監視装置を設置し、図書館側で施設内外の監視を行えるようにする。
- 受付カウンターは不要とし、スペースを確保する。
- 「まちカギリモート」を導入し、施設予約と入退室管理を行えるようにする。

2.8 持続可能な運営

(1)現状と課題

- 施設の利用者にとって適正な使用料を設定し、財政的に無理のない運営が求められる。
- 施設の維持管理に関するコストや運営方法を明確にし、持続可能な形での管理が求められる。
- 清掃・警備・植栽管理・環境衛生管理の維持費用を適切に確保し、快適な施設運営を実現する必要がある。

(2)提言

- 使用料は、施設の規模やコスト等を元に適正に設定する。収入は維持管理費に充当し、持続可能な運営を図る。
- 利用者が快適に過ごせるよう、適切な環境衛生管理（空調・換気・清掃・ゴミ処理）を徹底するため、保守管理・環境衛生管理を強化する。
- 施設の安全・衛生環境を維持しつつ、施設周辺の景観を維持するため、清掃・警備・植栽管理を委託し、管理体制を強化する。館内の清掃頻度は適切に設定し、清潔で快適な環境を維持する。
- 省エネ設備（LED 照明）を標準とし、運営コストを抑える。

2.9 施設運営に必要な収納スペースの確保

(1)現状と課題

- 基本計画には、施設の管理・運営に必要な備品を収納するスペースが確保されていない。
- イベント用の備品や清掃用具などの管理スペースが不足すると、施設の運営効率が低下する。

(2)提言

- 施設管理に必要な備品（清掃用具、イベント用品、消耗品など）を収納できる専用スペースを配置し、施設全体の運営効率を向上させる。

2.10 防災機能の強化

(1)現状と課題

- 図書館に隣接する立地を活かし、災害時の地域支援機能を高めることが求められる。

(2)提言

- 災害時の二次避難施設として役割を果たすため、緊急時に使用する備品（防災用品を含む）を収納できるスペースが必要である。
-

2.11 ユニバーサルデザインの導入

(1)現状と課題

- 乳幼児連れの利用者も快適に利用できるきめ細やかな施設設計が必要である。
- 障がい者、高齢者、多世代が使いやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れることが重要である。
- 特にトイレは、乳幼児連れの利用者やバリアフリー対応が求められる場面が多い。

(2)提言

- 乳幼児連れでも利用しやすいトイレの設計を採用する。
 - おむつ交換台、幼児用便座、手洗い場を完備。
 - 授乳室には、ミルク用給湯設備を設置し、オムツ替えコーナーと鍵付きの授乳スペースに分ける。
 - 障がい者や高齢者の利用にも配慮したバリアフリー設計を導入。
 - 車いす対応の多目的トイレを設置し、手すりや自動ドアを整備。
 - 点字案内や音声案内を導入。
 - オストメイトトイレを導入。
-

3. まとめ

本提言書に記載された内容は、新交流施設が地域住民にとってより良い学びと交流の場となり、持続可能な運営が可能となることを目指している。今後の設計・運営において、これらの提言が反映されることを期待し、地域社会の活性化と住民の満足度向上に貢献することを願う。
